

紅緑編「滑稽俳句集」を読み解く 9

2010.02.21 (聞き手 高橋素子)

高橋 滑稽句を詠むにあたり「温故知新」を目標に
108年前の紅緑編「滑稽俳句集」を分り易く面白くご教授戴いて参りましたが、今回は遂に九回目・・・

やっと今日は、春の部の「人事」からというところまでやって参りましたよ。

会長 この未知の道のはるかに遠くとも
始めたからは跡に戻れず トホホ作

高橋 おふざけになっている場合じゃないでしょ。(笑い)
でも、★行くか戻るかここが思案橋
思案坂？登りは特にしんどくて・・・！

会長 何を言ってるのですか？
冗談！冗談ですよ！（笑い）

初めてこの貴重な百八年前の古書を手に入れて読破しようと思った時の感動を忘れては困りますよ。（協会報No.10）

高橋 「温故知新」を目標に紙魚になって古書を泳ぎ回るのでしたね。

・・・そう言えば毎回面白く学習させて戴きなが

ら、少しずつ賢い紙魚（自己満足？所詮紙魚ですからお許し下さいね。）になってゆく様な気が・・・

直接関係はありませんが、オリンピックで死力を尽くす選手の姿に毎日感動の涙も・・・
やっぱり私、頑張ります。（単純な私！）

それでは、いつも通りに始めさせて戴きます。
まず、簡単に紅緑の「滑稽俳句集」の凡例（編集方針）について復習しておきますね。

紅緑は全俳句を春夏秋冬の四季に分け、そのそれぞれの季を天文、時令、地理、動物、植物、人事（器用）、詠物の七項目に分類しています。

本日は、春の部の人事（大自然でないもの）から始めさせて戴きますね。

「門松」「輪飾」「初暦」「恵方棚」それぞれの新年の季語に一句ずつ書いてありますよ。

- ☆ 折てさすそれも門松にて候 一茶
- ☆ 輪飾を天窓にはめて見たりけり 紅緑
- ☆ 初暦妻めとる日も見あたらず 虚子
- ☆ 恵方棚鼠にゆかしがられけり 也有

ご説明下さいね。

会長 ☆折てさすそれも門松にて候 一茶

一茶が自身の合理性を自嘲したものです。
松の枝一本をさしただけだが門松に違いなじゃないか・・・というわけです。

☆輪飾を天窓にはめて見たりけり

輪飾りは正月の季語ですね。四角な天窓が丸く
なってしまいますねその可笑しさです

☆ 初暦妻めとる日も見あたらず

結婚の予定はないということで、本当はめとる日
を待ちわびているわけで 他人ごとのように書いて
いるのが可笑しいですね、

☆ 恵方棚鼠にゆかしがられけり

各家で年神棚・恵方棚などと呼ばれる棚を作り、
そこに年神への供え物を供えた。
「ゆかしい」は、好奇心を持つこと。つまり、恵
方棚を作ったところ鼠が興味津々だった。という
わけですね。

高橋 次の新年の季語は「萬歳」ですよ。
三河萬歳とか尾張萬歳とか有名ですが、次の句ご
説明下さいね。

☆ 萬歳や十三文の足拍子 存義

会長 ☆ 萬歳や十三文の足拍子

萬歳は 正月に家々を廻ってお金を貰って演じた
わけですが、当時の相場が十三文だったというこ
とです、萬歳は足を踏み鳴らして拍子をとった。
足拍子だけが目立つ・・・
それほどの芸でもないのに、十三文も取られ
た・・・という、忌々しい気持なのか、さすがに、
十三文の値打ちがある足拍子と褒めているの
か・・・
後者でしょうね。

高橋 成る程。
昔の行事仕来りもいろいろと面白いですね。
次の「猿廻し」も面白そうですよ。

☆ 三筋足る顔とも見えず猿廻し 也有
☆ 親猿の赤い頭巾や叱られし 虚子
☆ 猿引は猿より愚なる顔にして 愚哉

こうなると猿と猿つかいと、どちらが賢いか分らなくなりましたね。（笑い）

会長 ☆三筋足る顔とも見えず猿廻し 也有

猿より人間のほうが毛が三本多いとされます。
しかし猿と猿廻しを見比べて・どう考えても、猿
廻しは猿と同じぐらいの知性しかない・・
と軽蔑している。酷い句ですね

☆ 親猿の赤い頭巾や叱られし

親猿は叱られ役を演じるのですね。
叱られて親猿が頭巾を脱いでしまったのでしょ
う。
赤い頭巾をかぶっていたために叱られたと
親猿は思うわけです。

高橋 成る程！猿知恵もそこまでゆくと、返って賢い様
な気が、可愛そうでもありますね。

☆ 蓬萊や唯三文の御代の松 一茶
☆ 蓬萊に南無南無といふ子供哉 一茶
☆ 蓬萊に徐福と申す鼠かな 虚子

蓬萊とは、「新年の祝儀に三方の盤上に白米を盛
り熨斗鮑（のしあわび）・伊勢海老・勝栗・昆
布・・等等飾ったもの。

また、三神山の一。中国の伝説で仙人が住み不老不死の地とされる霊山。蓬莱山。日本でも富士熊野などの霊山」。

また徐福は「秦の始皇帝の命で三神山に不死の仙薬を求めた伝説上の人。日本に渡来、熊野または富士山に定住したと伝えられる。」と広辞苑に書いてありますよ。

会長 ☆ **蓬莱や唯三文の御代の松** 一茶

御代の松というからには 立派な松でしょうが値段が三文というから小さな鉢植でしょう。
正月に飾ったのです。この場合も安価であることの自嘲ですね。

☆ **蓬莱に南無南無といふ子供哉** 一茶

蓬莱は神前に供えたものでしょうが仏式の南無南無・・・子どもだから許されること
まあ可笑しいね ぐらいかな

☆ **蓬莱に徐福と申す鼠かな** 虚子

鼠が蓬莱にとりついている・徐福という謎の仙人の仮の姿かも知れぬ。と思ったのです。

高橋 三句目虚子の句面白いですね。

次の季語は「太箸」です。

お雑煮を祝う時に使う白木の太い箸で雑煮箸、祝い箸と言われるものですね。

☆ **太箸を取て夫子の宣たまはく** 紅緑

会長 ☆太箸を取て夫子の宣たまはく

正月の膳に家族の顔が揃う。主人が太箸を手にしてお説教じみた挨拶をしたのでしょう。

高橋 次の季語は「紙鳶(しえん)」。凧の事ですね。

☆ 祖父の目に鳶をほめけり几巾 也有

☆ 飯粒も春は来にけり几巾 乙二

☆ 美しくしき凧あがりけり乞食小屋 一茶

ところで、「几巾」って何ですか？

会長 几巾・・・いかのぼり と読みます。
凧のことですね。凧の字を分解すると 几巾になります。

☆祖父の目に鳶をほめけり几巾 也有

几巾と鳶が空を舞っている。
祖父は鳶を見ていて鳶を褒めている。
几巾だと思って褒める。
・・・ああ勘違いという奴です。

☆飯粒も春は来にけり几巾 乙二

飯粒は貴重なものです。
と同時に少ない、小さなものの代名詞です。
飯粒ほどの春が来た。
空を舞う凧も飯粒ほどに小さくなっている。
という意味でしょうか。

☆美しくしき凧あがりけり乞食小屋 一茶

美しい凧が舞うので・・・どこからかと思ったら乞食小屋からあがっている。
まさか・・・のとりあわせの面白さ

高橋 凧を分解して几巾ですか？
いかのぼり？なかなか面白いですね。

次の季語は「手鞠」「遣羽子」「年玉」です。
一句ずつ書いてありますよ。

☆ 鳴猫に赤ン目をして手鞠かな 一茶
☆ 羽子下手に頭打たれたる油断哉 紅緑
☆ 年玉であらまし知れる家業哉 一茶

ご説明下さいね。

会長 ☆ 鳴猫に赤ン目をして手鞠かな 一茶

手鞠に夢中になっいると猫が相手にしてもらえないので嫉妬するんですね。
遊んでほしいんです。
すると、子どもが「あかんべ」するんです。
おまえなんか遊んでやらん・・・ということです
ね。

☆ 羽子下手に頭打たれたる油断哉 紅緑

羽つきをされていて 頭を打たれた それは油断
だった。下手を相手にするとこんなことになる。

☆ 年玉であらまし知れる家業哉 一茶

お年玉・・・新年に贈られる金品ですが金が贈られるようになったのは比較的最近のことで 室町時代には馬が贈られたりしたのです。
餅が贈られた時代もありました。

品物で家業がわかる・・・現物支給ですな。

高橋 成る程！流石会長！
一茶と同じ様に、猫と子供の気持ちが良くお分かりです。（笑い）

☆ 寶引の味方にまゐるおとなかな 召波

季語は「福引き」ということですが、
ご説明下さいね。

会長 福引と寶引は、意味としてはおなじですね。
福引は餅をふたりでひっぱりあって取り分の多少
によってその年の吉凶をうらなった。
宝引は 幾筋かの縄を束ねて、その先に品物をつ
けておき、引き当てたものです。

高橋 次の季語は、「子日」です。

正月初の子(ね)の日に野辺に出て小松を引き、和
歌を詠むなどの遊び・・・等と書物にありますが、
昔は随分風流なことをして遊んでいたのですね。

会長の句に

★俳句があれば何にもいらないお正月

という句がありますが、本と？嘘？は別にし
てこれらの行事と、心豊かさで何処かに通じるも
のが・・・それでは１０８年前の句に参りましょ
うね。

☆ 傘持は大根ねらふ子日かな 柴雲

☆ 烏帽子着て尻餅つくや小松引 存義

☆ 喰へもせぬもの引きに出る子の日かな 也有

也有には風流心が少し欠けてた様ですが（笑い）
ご説明下さいね。

会長 ☆傘持は大根ねらふ子日かな 柴 零

偉い人に長い柄の傘をさしかける人のこと。
風流な小松などではなく大根に目をつけるという
わけですね。

☆烏帽子着て尻餅つくや小松引 存 義

小松を引く程度のことに尻餅つくなんて
ホホホノホ・・・とからかっているわけです。

☆喰へもせぬもの引きに出る子の日かな

食うものを引き出すのが目的じゃないのに
折角引くなら食えるものを・・・と、風流を知らぬ
自身を嘲っていますね

高橋 次の句は「七草」です。
「芹・薺・御形・繁縷・仏座・菰・蘿蔔これぞ七
草」子供の頃覚えたものは不思議にいつまでも忘
れないものですね。（笑い）

七草は、正月七日に古くはこれを羹(あつもの)に
していたそうですが、後世では粥に入れて食べて
いますね。

それでは、108年前の句に参ります。

☆ 六日八日中に七日の薺かな 鬼 貫

☆ 七草を笑ひかへすや壁隣 我 常

☆ へたへたと笑ふて下手な薺かな 壺 角

ご説明戴けますか？

会長 ☆六日八日中に七日の薺かな 鬼貫

なんかようか ここのかとおか・・
なんてのに近いですね。

☆七草を笑ひかへすや壁隣 我常

長屋住居は隣と壁一枚ですから笑いも聞こえる・・
七草の卓を囲む一家団欒の笑いの応酬です

☆へたへたと笑ふて下手な薺かな 壺角

ぺんぺん草ですね。実のかたちが三味線の撥に似ていることからこの名がついていますが
三味線草の三味線が上手でない・・
ということですね。
薺は薬用に使われて「撫菜」から なずな になったんですね。

高橋 本日は、七草粥を頂いたところで108年前の句にお別れする事に。（笑い）

それでは最後に、会長のこれら新年に関する（人事の）俳句の数々ご紹介させて戴きたいと思います。ご解説よろしくお願い致します。

- ★ 元旦の手持ち無沙汰を楽しめり 健
- ★ 日本は年新たかも時差を読む 健
- ★ お年玉親に預けてよいものか 健
- ★ とまりかた知らぬ竹馬前進す 健
- ★ 糸伸ばしやる風の意のままに 健
- ★ 年賀状書いて指紋をすりへらす 健
- ★ 朗詠のしまひをしゃくり歌始 健

- ★ んと胸叩く雑煮餅痞え 健
- ★ 七種^(ななくさ)を読めて俳人らしき貌^(かお) 健
- ★ 熱々の七草粥に舌焦がす 健

会長 ★元旦の手持ち無沙汰を楽しめり 健
普段忙しいから・・・なんにもしないことが楽しい。

★日本は年新たかも時差を読む 健
海外旅行中の句ですね。

★お年玉親に預けてよいもののか 健
子どもが貰ったお年玉を親が預かって
流用する時に使い込むことは間々あることで
す。
その危険を怖れての句

★とまりかた知らぬ竹馬前進す 健
擬人化ですね

★糸伸ばしやる風の意のままに 健
風も自分で泳ぐ高さならこんなことに

★年賀状書いて指紋をすりへらす 健
年賀状は重労働ですからね

★朗詠のしまひをしやくり歌始 健
歌会始はこんなふうですね

★んと胸叩く雑煮餅痞え 健
熱い餅が支えて苦しいんでしょ

★七種^(ななくさ)を読めて俳人らしき貌^(かお) 健
どんな問題！
俺は俳人なんだという顔ですか

★熱々の七草粥に舌焦がす 健
七草粥は冷めたらマズイ

かといって熱すぎもこんなことになる

高橋 有難うございます。
今回も面白く（冗談は大好きですが、トホホ！は
どうも・・・）いろいろ学習する事も多くて・・・。

また、ご教授戴ける一カ月後が待ち遠しくて楽しみ
です！

ところで確か一休さんの狂歌に「門松は冥土の旅
の一里塚めでたくもありめでたくもなし」という
のがあった様な気がします。

一年、一年、年を重ねてやがて・・・と考えると、
新年の祝い事も確かにめでたい、めでたいと喜ん
でばかりはいられませんね。

会長 一ヶ月ごとに年取るインタビュー
トホホホホ おっと！また冗談か・・・！

（2010年2月号）